

防災だより

その53

防災専門官 野田 秀敏

警固断層について

太宰府市には、地震災害で大きな影響を及ぼす「活断層」が2つ存在します。

警固断層

警固断層は、玄界灘から博多湾を経て、福岡平野にかけて北西―南東に分布する活断層です。2005年3月20日、福岡県北西沖（福岡市北西30km）を震源とする最大震度6弱の地震（マグニチュード7.0、深さ9km）が発生しましたが、これは警固断層帯の北西部を震源とした地震でした。太宰府市は、震度4、被害は重傷1人、軽傷1人、家屋の半壊1棟、一部損壊174棟にまりました。

警固断層の詳細な調査が、地震後に行われ、福岡市の中心部から本市直下を通る陸上部（南西部）は、筑紫野市まで長さ約27km、マグニチュード7.2と想定され、今後30年間の地震発生確率は、4ランク中、最上位の「Sランク（高

い）」に指定。2016年熊本地震の布田川断層とほぼ同じ長さ、同じ地震規模になる可能性が高い活断層です。

特に警固断層は西方沖地震以降、ひずみが大きくなり、発生確率は全国でも高い部類に入り、今でも脅威が続いています。

地震災害は、年間を通じ、いつ起きるか全く予測ができませんが常にあります。

【日頃からの備え】

①家具の固定
・家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、通路がふさがれないような配置を考えましょう。

②家の周囲の状況を確認
・普段通る道に危険な場所や物がなければ、平時から確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震に

よって地盤が緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。

③連絡手段の確保
・地震が発生した時の連絡手段や近くの避難所、集合場所について、あらかじめ家庭で話し合っておきましょう。

④非常持出品・備蓄品の準備
・非常時に持ち出す物の準備や、水・食料の備蓄をしておきましょう。災害規模が大きくなるほど、支援物資の輸送や支援が遅れます。

自主防災組織について

自主防災組織は、災害に対し地域・近隣が協力し「自分たちの地域は自分たちで守る」という目的に向かって、市民一人一人の参加意識と活動により、組織的に「初期消火や情報の伝達、避難誘導、救出・救護、避難所の運営など」を行う自主的な防災活動です。本市44自治区の自主防災組織は、36区が設置（設置率約82%）、2区が設立に向け検討中です。

自主防災組織は、1995年の阪神淡路大震災を始め、2011年の東日本大震災、

2016年の熊本地震の際に、大きく報道されました。特に非常時において、地域を知っているからこそ「細やかな対応ができる」、現場の近くにいるからこそ「迅速な対応ができる」と即時即応のメリットがあります。

東日本大震災では、広域被害に加え職員が被災し、公助が機能しませんでした。また、熊本地震では、避難所の運営に職員が忙殺され復旧・復興への実施が遅れたという事例もありました。大規模災害が発生した時に被害の拡大を防ぐためには、国・県・市の対応（公助）だけでは限界があり、早期に実効性のある対策をとることが難しいため、自分の身を自分で守る（自助）とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むこと（共助）が必要です。

そして、この「自助」「共助」「公助」が有機的につながることにより、被害の軽減を図ることが出来ます。

自主防災組織



コミュニティ無線をととしての「Jアラート」試験放送を実施します

緊急時に「Jアラート（全国瞬時警報システム）」の情報がコミュニティ無線で正常に放送できるかを確認するため、全国一斉に実施される試験放送を本市でも実施します。

放送日時 令和3年5月19日(水) 午前11時

放送内容 「これは、「Jアラート」のテストです」を3回くりかえし放送し、「こちらは太宰府市です」を1回放送します。

※一斉訓練の状況に応じて、中止または延期される場合があります。

問い合わせ 防災安全課(内線 519・549)

